プログラム近況報告

2014年度（2013年10月1日～2014年9月30日）

World Vision
この子を救う。未来を救う。

ルワンダ共和国　グウィザ地域開発プログラム(RWA-190768)

新しい家の前に立つジョイスちゃん（11歳、右）と弟たち、母親のローズさん（左）

ADPの支援で家のすぐ横にできた貯水タンクで水を汲むことができるようになりました

チャイルドストーリー

雨漏りしない家で安心して眠れるようになりました

グウィザ地域開発プログラム（以下、ADP）の支援地域で暮らすジョイスちゃんは、以前は母親と４人の兄弟とともに、小さな草ぶきの家に住んでいました。父親は家族を捨てて出て行ってしまい、母親のローズさんは一人で子どもたちを育てていました。貧しい生活で食事も十分に食べられず、ジョイスちゃんは毎日お腹が空いたまま学校に行っていました。遠くまで水汲みに行かなければならず、そのせいで学校に遅れることも多かったと言います。草ぶきの家は雨に弱く、雨期には雨漏りで服も教科書も濡れてしまい、眠ることもままならない厳しい生活が続いていました。そのような中、ワールド・ビジョン（以下、WV）の支援が始まり、ローズさんはわらにもすがる思いでジョイスちゃんをチャイルドとして登録しました。ジョイスちゃんたちは最も支援が必要な家庭に選ばれ、雨漏りのしない家と、家のすぐ横には貯水タンクが提供されました。この支援により、ジョイスちゃんは雨期でも濡れずに暮らせるようになり、水汲みも楽になりました。ローズさんは乳牛１頭の提供を受け、子どもたちにミルクを飲ませることができるようになっただけでなく、牛の排せつ物を肥料として利用することで、農産物の収量も増えました。

「もう雨を心配せずぐっすり眠れます。水汲みで学校に遅れることもなくなりました。ご支援に感謝しています」とジョイスちゃんは元気いっぱいに話してくれました。

食糧増産プロジェクト

養豚を通じて子どもたちの教育と健康が支えられています

特に貧しい家庭に対して合計149匹の豚を支援しました。ルワンダでは、豚肉は牛肉に比べて約2倍の価格で売られており、養豚は高収入な活動です。豚は一度に8～10匹の子豚を産み、繁殖力が強く、排せつ物はバナナ栽培のための肥料としても大変役立っています。これらの家庭では、収入が向上したことにより、子どもたちの教育費や医療費により多くの金額を充てることができるようになりました。

ある養豚組合では、ADPが支援した豚の数が半年で20匹から57匹にまで増えました

豚の排せつ物から作った堆肥により、バナナの生育が以前に比べ良くなりました

$ 貧困家庭に合計149匹の豚を支援

平和再構築プロジェクト

住民悲願のジェノサイド記念館が完成しました

ADPは地方行政と協力し、ジェノサイド記念館を建設しました。支援地域では、1994年のジェノサイド（大量虐殺）の時期に、8,029人もの犠牲者が出ました。共同墓地は以前からあったものの、管理が十分に行き届いていなかったため、遺族は心を痛めていましたが、今では犠牲者の遺骨は記念館に安置されています。ジェノサイドから20年が経ち、ルワンダの人口の過半数をジェノサイド後に生まれてきた世代が占めるようになりました。記念館は、この美しい国で起こった悲劇とそれを繰り返さない国民の固い決意を後世に伝えています。

ジェノサイド記念館

悲劇を忘れず、繰り返さぬように

教育プロジェクト

初等教育の質向上と職業訓練に力を入れています

ルワンダでは、初等教育就学率はほぼ100%に迫りますが、生徒数に対して教室、机、イス、教科書などが全く足りていません。2014年度、ADPは支援地域内の小学校7校に合計700台の机と6,400冊のノートを支援しました。また、ジェノサイドやHIV/エイズなどで親を失った子どもたちには職業訓練の機会も提供しています。裁縫の訓練を受けた子どもたちの中には、自分たちの小さな店を持つ者もいます。生活の糧を得る術を身に付けた彼らの表情からは、喜びと自信が感じられます。

職業訓練を受けた子どもたちが経営する小さな仕立屋の様子

700台の机と6,400冊のノートを支援

保健衛生プロジェクト

きれいで安全な水を子どもたちに届けています

地域内で長らく壊れたままになっていた12の手押しポンプを修繕しました。これにより、子どもたちは湖や沼の汚水を飲み、下痢、コレラ、腸チフスなどにかかってしまうという心配から解放され、きれいで安全な水を井戸から汲めるようになりました。また、支援地域内で今まで医療施設が全くなかった村に診療所を建設することができました。この村や周辺地域の人々は、10kmも歩いて別の村にある診療所や保健センターに通わざるを得ませんでしたが、身近な場所に診療所ができたことで、特に幼い子どもや妊産婦が必要な医療サービスを受けやすくなりました。

修繕された手押しポンプを使い、水を汲む子どもたち

村で初めての診療所

村で初めての**診療所**が完成

支援地域の女性のストーリー

支援によって自尊心と希望が持てるようになりました

貧しい家庭で育ったヴィルジェニアさんは小学校にしか通えず、19歳の時に結婚しました。2人の娘を授かりましたが、若くして夫が亡くなり、苦しい生活が始まりました。住んでいた草ぶきの家は政府によって撤去されてしまい、ホームレスとなったヴィルジェニアさんは、幼い娘たちと扉のない給水小屋に住み、近所の人に残飯をもらって暮らしていました。娘たちの服を洗濯するための石けんさえ買うことのできない貧しい生活が続き、娘たちはそれぞれ小学校3年生と4年生で学校を止めざるを得ませんでした。その後長女は16歳の時に妊娠してしまいました。「娘が私と同じ道をたどり、本当に悲しく希望がありませんでした」とヴィルジェニアさんは振り返ります。

そのような時にADPの支援が始まり、最も支援が必要な家庭のひとつに選ばれたヴィルジェニアさんたちは、家と乳牛1頭の提供を受けました。「どん底の状態から救い出され、自尊心と希望を持って生きることができるようになり、本当に感謝しています」と話すヴィルジェニアさん。

今は畑でジャガイモや豆を育て、最近は肥料も買えるようになって収量が増えています。「孫が元気に育ち、学校に通い続けることができるように、農業で家族を支えたいです」と話すヴィルジェニアさん。苦難の人生を歩んできましたが、支援を受けて将来に希望が持てるようになりました。

孫を抱くヴィルジェニアさん（39歳、左）と長女（右）

ADPマネージャー・インタビュー

Q.どのような仕事をしていますか。

ADPの責任者として、予算に基づいたプロジェクトの企画運営、行政やNGOなどパートナーとの関係構築、プロジェクトの報告と評価、ADPスタッフの管理などを行っています。

グウィザADPマネージャー　ジョナス・ルガンズ（49歳）

Q.2014年にいちばん困難だったことは何ですか。それをどのように解決しましたか。

限られた予算を効果的に使って活動を行っていくために、ADPのスタッフや行政担当者と知恵を絞って話し合いました。この結果、ある学校建設の際には、政府が土地を、地域の人々が労働力を、ADPが資材を提供し、少ない予算で学校を完成させることができました。

Q.WVで働く原動力となっているものは何ですか。

私自身6人の子どもの父親なので、貧しい生活の中で苦しんでいる子どもたちを見ると悲しくなります。WVで貧しい子どもたちとその家族の生活に変化をもたらすために働くことが、私に与えられた使命だと思っています。

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

ADPでは「子どもを中心とした開発」を行っています

会計報告

RWA-190768

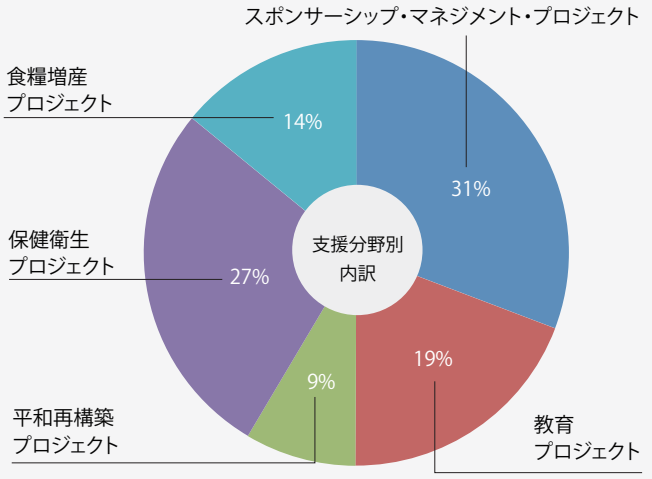
収支計算書　自 2013年 10月1日　至 2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	48,050,160
当期支援額	48,050,160
前期繰越金	72,220
プログラム支援額合計	48,122,380

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	14,660,578
教育プロジェクト	9,191,735
平和再構築プロジェクト	4,028,653
保健衛生プロジェクト	13,054,054
食糧増産プロジェクト	6,703,644
プログラム支出額合計	47,638,664
次期繰越額	483,716



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351（平日 9:30 ～ 17:00）

FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン　検索

ホームページ：www.worldvision.jp

e-mail : dservice@worldvision.or.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載してあります。ホームページにぜひお立ち寄りください